

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		遊園地（職員）	・今後もイベント実施などの集客施策や料金施策の効果により、引き続き多くの来園客を期待する。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・寒い季節がやってきたため、トイレや風呂で亡くなる方が多くなっている。しばらくは寒いので、この状態が続く。
		商店街（代表者）	・2月の初めから新入生の学用品販売が始まるので、店も活気づいて忙しくなる。
		商店街（代表者）	・年末贈答用農産物の生育が良く、多くの注文が期待できる。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・年末年始に向かって、客の動きが少しずつ良くなるのではないかと期待している。
		百貨店（売場担当）	・ここ数年、新規客が大きく増えることはないが、現在当社で力を入れているWebからの客の取り込みによって、今まで来店しなかった新しい客の獲得に成功すれば、少しは変わるのではないかと。
		乗用車販売店（経営者）	・消費税再増税前の駆け込み需要により、新車販売の増加が見込まれる。
		乗用車販売店（経営者）	・地域性から、季節商材の販売増が望める。
		乗用車販売店（管理担当）	・販売台数や来客数の見込みから、やや良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・希望的観測をもって、前向きに考えている。
		スナック（経営者）	・通常ならそろそろ忘年会の予約が入り始めるが、今年は少し遅いようで、売上も例年並みを期待できるか分からない。ただ、12～1月は忘新年会で、ある程度は人が流れると思うので、多少の売上は期待できる。
		観光型ホテル（支配人）	・この先の予約はおおむね良好で、インバウンド需要は堅調である。国内客の動きも良くなってきている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約はある程度好調なまま推移しているが、フリー客の動きはさほど回復傾向にない。天候等の外部要因は見当たらないので、フリー客を取り込めれば確実に良い方向に向かうとみている。これからイベントが続くので、そこで大きく人が動いて好転に向かうと期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・12月に入りボーナスも出ると思うので、全体的な動きが良くなり、忘年会等の利用が見込める。また、天候も暖冬傾向で、客が外出しやすい雰囲気になっている。
		タクシー運転手	・12～1月はふだんの月よりも売上がかなり多くなる。ただし、前年並みにいくかどうかは分からない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・消費税再増税の影響がどう出てくるのか、今の段階では予測ができない。先行きが良くなるような兆しはみえない。
		百貨店（営業担当）	・現状とさほど変わらない。人手不足感が強いので、大変だとは思いますが、賃金やコスト上昇も考えられる。景気自体はそれほど悪くはない。
		スーパー（経営者）	・比較的気候が温暖で、鍋材料の売上が低迷しているため売上増は余り期待できない。
		スーパー（経営者）	・11月は売上が前年比25日までに131%、来客数100%である。今月も大きなイベントが2回あり、3日間無事に終わった。来年3月、5月と大きなコンサートがあり、仕事が入っている。
		コンビニ（経営者）	・お正月、節分関連のイベントがあるものの、低調なのではないかということで、変わらない。
	コンビニ（エリア担当）	・良く捉えれば持ちこたえているといえるが、これ以上は下がりようのない状況にあるともいえる。	
	コンビニ（店長）	・長期予報では暖冬予想だが、そうなると陽気も中途半端になる。今月の状況のまま変わらなないと、物の動きは難しくなるのではないかと。	
	家電量販店（店長）	・近隣企業で、景気の良い話を聞かない。	
	乗用車販売店（経営者）	・高齢化により自動車を手放すユーザーもあるため、当社の顧客数は減少傾向にある。	
	都市型ホテル（支配人）	・例年、冬の宿泊稼働は落ちるが、今年は初の試みとして中心市街地や地元の名刹の参道でイルミネーション点灯が行われる。期間も長いので、県外客の集客に期待したい。	
	旅行代理店（副支店長）	・増加傾向はこのまま継続するとみており、海外、国内旅行共に、順調な受注である。懸念されるのは、秋の収穫時期の荒天による収入減での旅行離れである。それさえなければ、春先までは現状の動きが継続する見込みである。	

	通信会社（経営者）	・12月1日の4K8K放送スタート間近であるが、関心、興味を示す人は限られている。余り期待できる状況ではない。	
	ゴルフ場（経営者）	・暖かな日が続き、平日利用の多いシニア、レディースの動きが良い。当ゴルフ場では、健康だけがのこないコースづくりを行っている。	
	ゴルフ場（経営者）	・年金世代の消費が旺盛なうちは、身の回りの景気は変わらないと予測する。	
	美容室（経営者）	・天候が安定してきているため、固定客の来店数はほとんど変わらない。12月に入っても大きな変化はない。	
	設計事務所（経営者）	・3か月後も変わらず、仕事の依頼が多く入っている。	
	百貨店（店長）	・気温が高いこともあり、主力の衣料品は重衣料の動きが悪く、売上は前年を下回っている。また、好調だった食料品も良くない。全体的に消費の勢いが感じられない。	
	スーパー（経営者）	・消費税再増税の話題が多い上、不安感を醸成する話題も多いので、やや悪くなる。	
	スーパー（副店長）	・北国の冬は灯油やガソリンの消費が多い。今年は燃料価格が高騰しており、景気が上向くとは考えにくい。また、来年には、消費税再増税もあり、徐々に節約志向が高まる。	
	自動車備品販売店（経営者）	・ボーナス支給増による購買意欲増を期待するが、冬季商材の販売遅れ分を取り返すのは厳しい状況である。機械製造業の輸出関連では、減産の話も耳にすることが増えている。消費税再増税に対する見定めで買い控えも出始めている。	
	一般レストラン（経営者）	・当地域の大型飲食チェーン店出店による影響は、常連客も含めて戻るのがに時間が掛かりそうで、この先不安である。	
	一般レストラン（経営者）	・良くなる要因が見当たらず、飲食業の場合、消費税再増税時の軽減税率対応の問題があるので、対策を考えたい。	
	スナック（経営者）	・フリー客の動きは良くなく、忘年会の動きも余り良くない。降雪が少ないため、スキー場にお金が落ちないのも困る。	
	観光型旅館（経営者）	・冬季は売上減少が続いていたが、7年ぐらい前から減少が止まって、低いながらも売上は安定している。今月は売上がやや良かったが、冬季は例年並みに戻ると予想し、やや悪くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・別荘販売が低調で、売上減が続いている。	
	×	衣料品専門店（経営者）	・冬物の消費も、春になるまで分からない。
	×	スナック（経営者）	・地方は、総理大臣の行動とともに動いていない。都会は東京オリンピックや大阪万博と、これから良くなると思うが、地方は本当に大変である。
企業 動向 関連  (甲信越)		-	-
		食品品製造業（営業統括）	・やや低迷していた消費量が回復してきており、今後も引き続き増加すると考えられる。ただし、心配される点は、ぶどう生産が、付加価値の高い生食用ぶどうに移行しており、国産100%のワイン原料の確保が心配である。
		金融業（経営企画担当）	・年末年始にかけて商戦も活発になると感じている。また、ボーナス支給による消費の活発化等もあり、やや良くなる。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・近々には、クリスマスワークショップの開催が見込まれる。また、年度末に向けて新製品の受注見込みに期待している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注見込みもあり、当面は安定しそうである。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・展示会や中国人客頼みのところがあり、卸売や小売の店頭販売はいまだに低調なため、先行きの見通しは依然として変わらない。
		建設業（経営者）	・冬季に入り、人手不足の状況も続いているので、受注量は落ちてくる。原材料の価格上昇により、経費の増加が予想される。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・チラシの減少傾向に歯止めがかからない。エクステリア工事業者は「注文はあるが、工事も人手不足で受けられない。結果は同じで良くも悪くもない」と話している。
		食品品製造業（総務担当）	・閑散月であることに加え、年末の反動で販売の動きが悪くなるのが予想される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・材料費の値上げの影響で、やや悪くなる。
	金融業（調査担当）	・米中の貿易摩擦の影響が顕在化しなければ、緩やかな回復が続く。現状、両国対立の緩和の動きはみられず、これまで景気をけん引してきた製造業にも影響が及び始めるとみている。	

	x	食料品製造業（製造担当）	・最低賃金が更に上がり、零細企業は売上、利益共に減少しているなか、経費のみが増加して、経営環境がどんどん悪化している。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変なのはいつものことだが、仕事量の減少も感じている。
	x	電気機械器具製造業（営業担当）	・先行きの見通しが改善されない。
雇用 関連 (甲信越)		-	-
		職業安定所（職員）	・求人倍率は高水準を維持しており、新規求人数も増加したことから、大きな動きではないが、やや良くなると見込まれる。
		人材派遣会社（営業担当）	・希望している就労先が見つからないまま、年末を迎える人が多いように思う。職安等も含めて、現実と違う条件が多く、相変わらず派遣会社に相談に来る方が多いため、今後も変わらない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・季節的に臨時従業員を募集する店が多くなるものの、応募者が少ないため、現状のスタッフで少しでも効率よく回していかなければならない。
		職業安定所（職員）	・新規求人は申込み時期の波はあるものの、好調を維持している。新規求職は定年到達者、在職者で増加がみられ、全体では4か月ぶりに微増となっている。また、在職者の全体に占める割合が2.9ポイント増加しているが、離転職の動きは鈍く、企業の人手不足感是不変わる。
		職業安定所（職員）	・パートを含む有効求職者数、有効求人数共に前月より増加しているものの、上半期と比較して同一水準で推移している。有効求人倍率も前月と同じことから、やや高水準で景気は推移している。今後3か月から半年は、同一水準で継続していくと考えている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・製造業に米国大統領の政策影響が出始めている。外注委託を自社の内部作業に切り替えたり、あるいは、より安い海外へのシフトが一層強くなって、零細企業と大手、中堅企業の格差拡大が予想される。
		-	-
	x	-	-